

説教

義認 世界が始まる前に

おはようございます。

先週申し上げたように、私はこの書簡におけるパウロの発言の以下の部分の意味を、前の節、特に（ローマ 8.28）から流れてくるものとして引き出そうとしています。先週 2 月 4 日（日）の言葉を再引用します：

「召命！」聖書の中で、神の子どもたちに対する神の心の中で、なんと力強い言葉でしょうか。ローマ人への手紙のこれらの箇所を正しく理解するためには、クリスチャンの「高い召し」、あるいは「天の召し」に照らして、どのように理解しなければならないかを明らかにしようと思います。このように、“召命”とは、この世に生を受ける前も、この世にいる間も、そして時が過ぎ去った後も、私たちが神と結びつける行動、あるいは積極的な言葉なのです。

先週のメッセージのタイトルは「義認：終末は救済である」でしたが、今週は「義認：世界が始まる前に」です。先週、ローマ書で終末の出来事を中心の中で、私たちの最終的な救いがどうなるかということ学びました。

よみがえり、救われ、栄光を受けた聖徒として、私たちは罪の性質のない新しいからだをうめきながら待つ必要がないのです。私たちが栄光の体でイエスとともに地上に戻り、「神の子」としてイエスの栄光を分かち合うことで、被造物もそのうめきから解放されます。ローマ書 8 : 21-22 には希望も持っています。21 つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。22 被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。自然とクリスチャンによるこの待望は、終わりの時に「神の子」とともに啓示された「神の子」として私たちが来るときに、ついに満たされる。

要点その 1

ローマ人への手紙におけるパウロと神の目的は、「時の終わり」に至るさまざまな出来事の詳細を必要とするものではありません。そのほとんどは使徒パウロとヨハネに明らかにされました。これらの詳細は、約 1,000 年前に旧約聖書の預言者たちの多くが受け取っていた多くの預言を明らかにするものでした。聖書におけるこれらの啓示は、多くの超自然的な出来事について語っています。聖書における“終末の出来事”あるいは終末論とは、おもに人類と人間の住処である地球に対する神の怒りが無制限に解き放たれることによって引き起こされる地上の未来のことです。神は何千年もの間、悔い改めのない罪人と御子を拒んだことに対して、御怒りを留めてこられました。ローマ人への手紙に書かれた神からのメッセージは、クリスチャンが神の御子イエスと共に地上での輝かしい人生を歩むことを待ち望み、それが天国でのさらに輝かしい永遠へとつながるというものです。

神の深い願いは、クリスチャンが時の上におられる神を信頼すること、そして、彼らが理解することのできないほどの、自分たちに対する神の変わらぬ愛を知ることなのです。

ローマ人への手紙の次の章では、信仰によって義とされたクリスチャンに対する神の壮大な計画の一部として、時が始まる前のタイムラインの反対側を宣言しています！パウロはこの手紙の中で、神の知識と愛に富み、義認が御子の犠牲による神の罪の問題の解決であることを明確に定義しています！

神が時を超越した存在であることは、聖書の冒頭で明らかにされています。創世記 1.1) 初めに、神は天と地を創造された。このように、神は時間の「始まりの前」に存在していたのです。時間は、神が“始まりの後”に創造された星や銀河を含む、地上や天や宇宙での既知の出来事によって測られています。創世記 1:14-19 14 神は言われた。「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。 15 天の大空に光る物があって、地を照らせ。」そのようになった。 16 神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。 17 神はそれらを天の大空に置いて、地を照らせ、 18 昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。 19 タベがあり、朝があった。第四の日である。

ローマ書 8:28 は、神のしもべパウロを通して、神が「永遠の光」の中で語っておられることを明らかにする極めて重要な箇所です。そこにはこう書かれています：「私たちは、神を愛する者、すなわち、神の目的に従って召された者には、神がすべてのことを働かせて益ととしてくださることを知っています。」 前回のメッセージでは、神の主権的な支配が、イエスを通してのクリスチャンとの関係性と組み合わせ、神が選んで起こされること、すなわち、**神を愛し、神の目的に従って召された人々にとって良いことが起こる**ようにコントロールされることを強調しました。

さて、8章に続く節で、永遠（過去と未来）を絵に描いてみましょうか。以前にもお話したように、ギリシャ語では小さな言葉が、新しい情報や「因果応報」の出来事に気づくための大きな転機や赤信号になることがあります。（ローマ 8.29/NASB1995）にはこう書かれています。：神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。

NASB1995 英語訳では最初に「For~のために」という単語が使われていますが、それはその前にあったこと（28節）に関して、その先（29節）を説明する言葉です。パウロが書いた元のギリシャ語の新約聖書（マウンス）では、「(Because) なぜなら神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。」とあります。

(29節)の冒頭の小さな単語は、“for”ではなく“because”と訳するのが最適であることに注意した方が良いでしょう。ギリシャ語では (hoti)、英語では (because) は因果関係の助詞としてよく使われます。英語の“to be”と“cause”は原因と結果の接続詞、つまり助詞です。神がクリスチャンにすべてのことを益ととしてくださるのは、神がクリスチャンを予見しておられるだけでなく、神がクリスチャンを創造される前に選ばれたからです。ですから、神は時が始まる前から、クリスチャンになるようにすでに働きかけておられたのです！予知し...そして予見する!... だから、神が

今、彼らの益のためにすべてのことを成し遂げ続けておられることを期待するのは、論理的であり、合理的なことなのです。

イエスが弟子に言われたことを思い返してみましょう。ヨハネ 15：16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。私たちはまず、イエスが一晩中祈った後、ガリラヤで十二弟子を選んだことを思い起こすかもしれません。

ルカ 6.12-13 12 そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。13 朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。12 そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。13 朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。しかしイエスは時の始めに神とともにおられ、神であったのです。ヨハネ 1：12 にこう記されています。

1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。2 この言は、初めに神と共にあった。だから、神が使徒を、あるいはイエスの弟子であるクリスチャンを、いわば二度選んだことに矛盾はないのです。一度目の召命は時が始まる前に、二度目の召命は地球上で、その人が生きている間に。実際、私たちは羊のようにさまよいやすいので、栄光のうちに主を見るまで、主は何度も私たちを選び、呼び戻さなければならぬように思えます。多くのクリスチャンは、神が自分たちを予知していることについては問題ないと感じているようです。しかし、神が自分たちをあらかじめ定めておられるという「定め」という言葉には違和感を覚えるようです。このことについて考えるための、聖書的で有益な方法がいくつかあります。

1) 摂理とは、私たちが最近、あるいは何年前に起こったことを振り返ればわかることですが、私たちがイエスと共に歩む中で、神が定められた道筋のことです。愛に満ちた父は、御自分の子供たちが危険、特に永遠の危険に向かって歩むのを黙って見過ごすことはありません。

ブルース牧師、エデンの園の蛇の悪魔はどうだったのですか？ アダムとエバは二人だけではなかったのですか？ この質問は来週のメッセージ（ローマ 8.37）のために留めておいてください。

2) 定められた愛とは、単に私たちの理解や感覚を超えた摂理です。時が始まる前から計画されていた摂理です。神が摂理的に、私に対する定め計画に従って、私がまだ罪人である間に、聖なる神に対する反逆の人生から地獄に値するとわかるような場所から、肉体的にも精神的にも導いてくださったことを、私はとても嬉しく思っています。そしてまた、適切なタイミングで、イエスが私の赦し、私が義とされるために死なれたことを知ったのです。OICの信者の皆さん：あなたも、主があなたのために摂理的にそうしてくださったことを嬉しく思いませんか？

3) この節（ローマ 8.29-30）の単純な読み方を変える文法的な方法はないのです。ギリシャ語-英語辞典（マウンス）では、動詞 "to predestine" の意味は proorizo-あらかじめ限定する、印をつける、あらかじめ確実に設計する、あらかじめ定め、定命する、です。ペテロとヨハネが逮捕され解放された後、エルサレムで弟子たちが祈ったときに使われました。

エルサレムの祭司長や長老たちは、二人を逮捕しました。群衆の圧力によって釈放させられたとき、

ペテロとヨハネは集団で祈るために、ある弟子の家に行きました。この力強い祈りの中で、聖霊がどのように彼らを一つの声に導かれたかに注目しましょう。

(使徒言行録 4.27-28) 27 事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒にあって、あなたが油を注がれた聖なる僕イエスに逆らいました。 28 そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。ここで私たちは、神の御心に従って、御子の召命、御子の生と死のために、神の摂理が適用されることを、定めという言葉にはっきりと見ることができます(ローマ 8.28)。世の罪を取り除く神の子羊としてのイエスの召命を完成させるために、イエスを十字架につけるために、サタンが罪人を支配する働きを、神によって影響された「御手」によって行われたのです。こうして、時が始まる前からイエスに対する神の完全で予言された計画が成就したのです。この例は、今日の私たちにこのメッセージを明らかにしています：(ローマ書 8：28-29) は、神の益となる行動は、神の選ばれた者たち、イエスと私たち信者の召命を完成させるためであると教えています。私たちは、イエスと同じ配慮と摂理を受け、同じ復活(29節)を受けることは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためなのです。

ローマ書 8：30 神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

神は～”召し出し”…さて、私たちの**“召命”**のこの部分を、時間的に、私たちが地球上で生きている間に起こる神の摂理の部分として考えてみましょう。この地上の摂理は、神の息子となる選ばれた子供たちに対するものです。「天職」というと、その人のキャリアパスや職業を意味するのが一般的ですがここでの「天職」はそういう意味ではありません！確かに、罪深い肉ではなく御霊に従って歩むことで、神は進路を含め、あなたの人生を細部にわたって方向づけることができます。しかし、それは副次的な効果です。第一の召命は、サタンの支配から御子の支配に移され、生まれ変わることなのです。

I ペテロ 2：9 しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。

ローマ書 8：30…神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし…今、私たちは、時が始まる前に予見し、定めた人々に対する、連続した、あるいは一連のつながりのある**神の行為**を見ることができる：予見、定め、召され、義とされた。

要点#2

人間の罪の問題の解決策である義認は、アダムとエバがサタンの誘惑に屈して罪を犯した直後、神が地球上で積極的に行動することを必要としました。神は、御子の絶対服従を必要とする決定的な行動を計画しました！（ガラテヤ 4：4）にあるように、しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。イエスが私たちを救うために地上に旅立たれたのは、天から地上に移動された以上のことでした。私たちを救うために、時の上から地上に移動したのだ。イエスは最初の真のタイムトラベラーなのです。

ブルース牧師からのメモ：過去と未来の超自然的な出来事の約束が記された聖書を読めば読むほど、SF本や映画で明らかにされているように、人間は神の子であることのこの部分に飢えているのだと実感します。世界がよく想像することを、私たちクリスチャンは受け継ぐのです！忘れてはならないのは、神は超自然的な存在だということです！....しかし、神は自然界の創造物を通して、私たちに神の善を成し遂げることもためらわないのです！イエスの十字架上の犠牲は、神の正しい正義を成就し、罪に対する神の怒りを鎮めるものです。この“良い知らせ”は、従順な“十字架の兵士たち”がイエスの大宣教命令に従うことによって、地球全体に広がっていきます。神の**全能の摂理**によって.....予言されていたことが起こり、福音は私に届き.....あなたに届いたのです！神の筆舌に尽くしがたい賜物を賛美します！OICの兄弟姉妹たち、**私たちは信じるからこそ喜べるのです！**

(ローマ書8:30) …**義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。**さて、先週お話ししたように、すべてのクリスチャンは、その先にある栄光をいづらか味わっていることを知っています。

神がご自分の子どもたちすべてに“すでに”何らかの栄光を与えようとしておられることを示そうとしているのですから、どうか我慢してください。ローマ書の流れから2つの“小旅行”を選んだのは、私が聖書の数節を取り上げて神学を創造したり、神の御言葉を通して神からのメッセージを私自身の考えで創造しているのではないことを説明するためです。

小旅行#1—は、盲目のクリスチャン女性、ファニー・クロスビーによって書かれた1800年代の有名なアメリカの賛美歌の最初の部分です。

題名(英語)は歌の最初の節です。邦題：なんとという喜び(罪とがをゆるされ)

Blessed Assurance, Jesus is mine (祝福された保証、イエスは私のもの) ローマ8.16 この**霊**こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの**霊**と一緒に**証**してくださいます。

0 What a foretaste of Glory Divine (ああ、なんとという神の栄光の前触れでしょう) ローマ8:30 主もまた栄光をお受けになりました。

さて、大きな疑問を抱く人がいるかもしれません：栄光を受けることのどれだけが“すでに”であり、栄光を受けることのどれだけが“まだ”なのでしょう？

さて、OICの皆さん：「このメッセージを紹介することで、あなたは私と一緒に旅に出ていますか？私の目的は、聖書を聖書で、聖句ごとに解釈することです。神の栄光をすでに体験しているか、まだ体験していないかという問いに答えようとする私を、どうか忍耐強く見守ってください。

ローマ人への手紙の中で、時の終わりにクリスチャンに与えられる神の約束は、神のひとり子である神の第二位格と同じ栄光を持つことであると見てきました。しかし、使徒たちを含む聖書における体験的なクリスチャンは、“すでに”いくつかの栄光を明らかにしています。私たちは皆、神の栄光をクリスチャンに、そしてたいいは教会に伝える「幻と夢」の両方を持つクリスチャンを知

っています。

小旅行#2 - (1 コリント 2.9-10)は、(9 節)で暗示されているように、永遠のこちら側でより多くの栄光を得るという問いに対する答えです。(ローマ 8.30)は、天における栄光の少なくとも部分的な啓示です。これは、神がすでに“神の子”と呼んでおられるすべてのクリスチャンに対する神の約束です。(1 コリント 2.10)は、使徒パウロと他のクリスチャンが、この地上の天国で神の栄光を体験した聖書の記録です。

使徒パウロが(1 コリント 2.9-10)で書いたことは、聖霊の靈感を受けたもので、この「すでに/まだ」という問いに答えています。パウロは(1 コリント 2.9)で(イザヤ 64.4)を引用しています：

「目が見もせず、耳が聞きもせず、
人の心に思い浮かびもしなかったことを、
神は御自分を愛する者たちに準備された」

そして、パウロの引用元にこうあります。(イザヤ書 64 : 4)

4 あなたを待つ者に計らってくださる方は神よ、あなたのほかにはありません。昔から、ほかに聞いた者も耳にした者も目に見た者もありません。

注：パウロはイザヤ書を引用して、主を待ち望む者(イザヤ 64.4)と主を愛する者(1 コリント 2 : 9)を同一視しています！

…神は御自分を愛する者たちに準備された」

と書いてあるとおりです。10 わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます。

御霊が“神を愛する者のために神が備えておられるすべてのこと”を明らかにすることは、“神を愛する者のために神が備えておられるすべてのこと”を経験することではありません。使徒ヨハネがイエスを中心とする天国を見て、ある程度理解して悟ったように、彼は完全な罪のない新しい復活の体でそこに行くまでは、天国を完全に体験することはできない。天国を大なり小なり味わうことは、疲れ果てた兵士たちが、イエスを見るというゴールに邁進し、より多くの実を結ぶ助けとなるでしょう！

イエスがもっと長く天国で待っていてくださるなら、私は愛する OIC の兄弟姉妹のためにコリント人への手紙を解釈することを楽しみにしています。今のところ、パウロがコリントの教会に対して、後のローマ人への手紙の神学を示唆、あるいは種明かししていることは明らかです。パウロはあまり高尚な用語を用いませんが、**義認**に焦点を当てたメッセージは同じであり、それは**イエス・キリストとその十字架上の死**です。

コリント教会とローマ教会を比較する背景 (実際には5つの家教会)

パウロがこの手紙を書いた西暦57年当時、ローマは文明世界の中心でした。そのため、ローマには洗練された学識ある出席者が多かったのです。パウロは、ローマのユダヤ人たちが、他の地域と同様、自分たちの子供たち全員が可能な限り高く普遍的な教育を受けることを重要視していることを知っていました。パウロは、有名なパリサイ派のユダヤ人教師ガマリエルの指導を受けた「最高の中の最高の教師」でした。そこで、パウロがコリントの信徒にどのように語りかけたかを見てみ

ましょう。(第1コリント2:1-2)

1 兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

では、Iコリント2:9で言う聖霊がこの地上に天の栄光を現した「私たち」とは誰なのでしょう。私たちは、この聖句の文脈と、書き手の聴衆に対する態度に照らして、あるいは論理的に、この問いに答えましょう。

最初の仮定は、パウロだけに、あるいはパウロとイエスの最初の使徒たちだけに「将来の栄光が啓示された」ということでしょうか。しかし、パウロは「私たち使徒たち」とは言っていないのです。次に(5節)を見ると、パウロはキリストの使徒としての地位を利用して、クリスチャンに人ではなく神の御言葉に頼ることを教えることを控えています。Iコリント2:5それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

Iコリント2:7では「神秘としての神の知恵…世界の始まる前から」とあります。7節わたしたちが語るの、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。

この知識をIコリント2:12にまとめています。12わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。

最後に、パウロによるコリントの信徒への謙虚な働きかけと、この聖書の箇所を最も単純に読めば、「私たち」の意味はコリントの教会のクリスチャンであることがわかります。もちろん、「私たち」にはパウロ自身や他のイエスの使徒や弟子たちも含まれています。コリントのイエスの羊に対するパウロの愛は、神が地上において彼らに与えようとしておられるすべての栄光を彼らに持つてほしいと願っていることを意味していました。もし彼らがまだ「私たち」でなかったとしても、「先の栄光」についての神の超自然的な啓示によって強められる「私たち」にすぐになれることを知っていたのです。地上におけるさらなる栄光の「すでに」は、より強い十字架の兵士を生み出すのです。それはまた、「まだ」への確かな「希望」を励ますものでもあります。「まだ」は、イエスに会うときに私たちが受けるであろう、完全な栄光のもう一つの経験だからです。今、聖霊によって「私たち」に啓示された「栄光」は、クリスチャンの栄光への歩みにおいて、御言葉への信仰やその信仰の必要性を減じることは決してありません。

最初の2つの要点をおさらいした後、私の最後の要点#3で今日のメッセージを締めくくります。

要点その1 (復習のために短縮)

ローマ書におけるパウロと神の目的は、「時の終わり」に至るさまざまな出来事の詳細を必要としません。詳細は、西暦57年のこの手紙の後に、使徒パウロとヨハネに明かされることとなります。ローマ人への手紙に書かれた神からのメッセージは、クリスチャンが神の御子イエスと共に地上での輝かしい人生を歩み、天国でさらに輝かしい永遠を迎えることを待ち望むようにというものです。神の深い願いは、クリスチャンが時を超えておられる神を信頼し、彼らが理解することのできないほどの神の変わらぬ愛を知ることなのです。

要点#2

人間の罪の問題の解決策である義認は、アダムとエバがサタンの誘惑に屈して罪を犯した直後、神が地球上で積極的に行動することを必要としました。神は、御子の絶対服従を必要とする決定的な行動を計画しました！（ガラテヤ4：4）にあるように、しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。イエスが私たちを救うために地上に旅立たれたのは、天から地上に移動された以上のことでした。私たちを救うために、時の上から地上に移動したのだ。イエスは最初の真のタイムトラベラーなのです。

要点#3

私たちが日々の生活の中で御霊に導かれて歩むとき、この地上での栄光をもっと味わうことについて神に祈る神の願いと一致します。イエスは主です。イエスは私たちの祈りに「やめましょう」「いいですよ」「待ちなさい」等、答えてくださる。しかし、イエスはまた、聖書（ヤコブ4.3）の中でこうも言っておられます。願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。

もし間違った動機で求めるなら、神が肯定的な答えを与えてくださるとは思わないでください。

ローマ書は、御霊と一致して歩むことを選ぼうとするクリスチャンに、イエスとの親しい歩みと、彼らの人生に対する神の御心に従って地上での神の臨在をより輝かしく味わうことをはっきりと勧めています。もし私たちが、神が本当に「私たちにとって益であること」を選んでくださることを信頼することによって形成された、あるいは動機づけられた動機を持っているなら、私たちは大胆に、より多くの栄光の経験を求めることができます。栄光への歩みは、御言葉と御霊、御霊と御言葉に従って歩むことである。私が主に（ローマ人への手紙8章）と（第一コリント人への手紙2章）から引用した聖書は、クリスチャンが地球にいる間に来るべき栄光をもっと味わい、期待するよう勧めています。これらの栄光の味は、「正義 - 時間が始まる前に - 時間の中で - 時間がなくなつた後」という言葉を裏付けるものです。親愛なる聖徒たちよ、神は、栄光への歩みを進める私たちに、御霊による愛を注ぎ続けたいと願っておられる。

祈りましょう。

引用

{ } - 分かりやすくするためにブルース牧師が付け加えた注釈

MOUNCE - both Translation, Copyright ©2011 by William D. Mounce.

& *Mounce Concise Greek-English Dictionary of the New*

Testament edited by William D. Mounce. /[Free Greek dictionary](http://Free Greek dictionary, BillMounce.com), BillMounce.com.

NASB - New American Standard - 1995 Edition

TLB- The Living Bible copyright © 1971 by Tyndale House Foundation. Used by permission of Tyndale House Publishers, Inc., Carol Stream, Illinois 60188. All rights reserved.